

武庫川だより 「ヤハズソウ考」

森田 至

○語源を考える。

多くの方は矢筈とは矢羽の事だと勘違いしています。矢筈は弓の矢の弦を受ける所の名称です。ヤハズソウは小葉を指でつまんで引っ張ると側脈に沿ってV字形に切れます。この形は矢羽に近いのですが、命名者（誰だかわかりません）が矢羽を家紋の矢筈紋と勘違いして名付けたと思われます。因みに環境体験学習で児童たちは初心者マークだといっていました。

○生態的特徴を考える。

ヤハズソウはマメ科ヤハズソウ属でマメ科の植物には写真のように根に根粒ができます。この根粒には、根粒バクテリアがすんでいて空気中の窒素をヤハズソウが利用できる形で提供します。一方ヤハズソウは根粒バクテリアに光合成産物を提供する相利共生関係にあります。武庫川高水敷のような貧栄養な場所でも広範囲に生育することができます。

○マルバヤハズソウとの見分け方を考える。

武庫川高水敷では、ヤハズソウにそっくりなマルバヤハズソウという別種のもものが生育しています。細かく見ていくと、花の形や模様、種の大きさと模様、托葉の違いなどがありますが、花や種子がないときには、葉の形で区別できます。ヤハズソウは長楕円形ですがマルバヤハズソウは丸みがあり、先端がハート型にくぼむ場合が多いです。また、茎に付く毛は、ヤハズソウは下向きに生え、マルバヤハズソウは上向きに生えます。私はマルバのルは上にはねると覚えています。



10月30日「虫とりペナントレース」の報告

事務局 垣田

例年8月に実施していたこの行事をコロナのために延期し、本日(10/30)実施しました。

気持ちのよい秋晴れとなり、トンボ・バッタを中心に2時間ほどで40種以上の虫に出会うことが出来ました。同定できた虫や活動の様子は、後日HPでも紹介します。講師で来ていただいた伊丹昆虫館の奥山館長から「いろんな所にいろんな虫がいて、楽しさを感じつつ『生物多様性』を知ってほしい。」また「寒くなっても冬には冬の虫がいる。見つけるのは難しいけど、寒さで動かないので昆虫観察にはベストシーズン。昆虫を通じて、春夏秋冬の季節を感じてほしい。」とお話がありました。

それぞれの所での写真です。



打ち合わせ



受付



伊丹昆虫館 奥山館長

(採集の風景から)



(同定風景から)



皆さん、久しぶりに大きな広場で思いきり虫を追いかけ、楽しんでおられました。